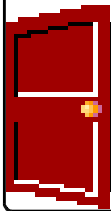


令和5年度《昨年度に続き、今年度も読書活動の楽しさと大切さを伝えたくて》



読書活動への扉を開く！

N o 45

桑村小学校令和5年9月12日

文責 渡邊

温かな雰囲気「読み聞かせ」はとても大切です！

静岡県立中央図書館の「子ども図書研究室だより」の令和4年10月号に、慶応義塾大学環境情報学部教授である今井むつみ氏の『言葉の発達、思考の発達を助ける絵本読みと読書』と題した講演の内容が紹介されていました。

語彙をただ知っているだけでなく、文脈が変わっても使える語彙力を育てることが学力につながります。語彙力を育てるには何が一番有効かというと、小さい頃からの読み聞かせと読書です。『プルーストとイカ』（マリアン・ウルフ著、小松淳子訳、インターシフト、2008）によると、読書の本当の目的、目指すべき目標は、書いてある文章の内容を自分の血肉にしてそこから自分の考えを作っていけるようになることです。小学校以降の子どもの語彙の成長、発達に最も大きな役割を果たすのは読書であり、自分で読むこと、読んでもらうことによって語彙を増やしていきます。幼児期での大人が話す言葉のシャワーや絵本読みの経験は子どもの一生に影響を与えます。実際、豊富な読み聞かせ経験の有無は就学までの獲得語彙数に「3000万語」も差を生むとアメリカの調査で言及しています。子どもは新しい言葉を覚えていく中で、言葉の仕組みも学び、自分で探索していきます。

桑村小学校では、マルベリーの皆さんによる読み聞かせ、そして、保護者や教職員による読み聞かせがこれまで実施されてきています。

また、月に一度、「親子読書の会」が本年度から開催され、鈴木さんによる「紙芝居」や「読み聞かせ」がその会の中で実施されています。

多くの保護者は小さな我が子に絵本の読み聞かせをしている姿が認められ、とても温かな空気が会場を包んでいます。



【マルベリーさんの読み聞かせ①】



【マルベリーさんの読み聞かせ②】



【マルベリーさんの読み聞かせ③】



【保護者による読み聞かせ①】



【保護者による読み聞かせ②】



【保護者による読み聞かせ③】

令和5年度にスタートした「親子読書の会」の様子を紹介します。



【親子読書の会①】



【親子読書の会②】



【親子読書の会③】



【親子読書の会④】



【親子読書の会⑤】



【親子読書の会⑥】



【親子読書の会⑦】



【親子読書の会⑧】



【親子読書の会⑨】

読み聞かせ、読書というと紙とデジタルとどちらがよいのかという問いがあります。紙と比べてデジタルに欠ける要素は2つあります。1つ目はデジタルでは一方向の流れにしかないことです。紙で大人が対面で読んであげる時はどこを読むか、いつ読むか、子どものペースに合わせて名前を言ったり、教えたりしています。例えば特定のページ、特定のものに対して、ものの名前を言ってあげる時、実はリードを取っているのは子どもです。しかし、デジタルの絵本ではもともと作られたものであるため双方向のやり取りにはならず、上手く学べません。

2つ目のデジタルに欠けることは想像の余地がないことです。紙の本では絵本に素敵な絵があり、想像の余地がたくさんありますが、デジタルではアニメーションの細部までが鮮やかに描かれてしまうため、想像する部分を奪ってしまいます。この2点がデジタルと紙の本との大きな違いと言えます。

言葉を教える時は子どもが親をリードしており、子ども自身の行動が子どもの言葉の学びをより促進させます。そのため、絵本を読む時に子どもの興味の先に注目することが大切であり、それが絵本読み、読み聞かせを通じて言葉の発達、認知の発達、思考の発達、推論の力の発達を促す、そして学力の基盤になっていくということです。

時代は超スマート社会となり、私たちの生活はどんどんデジタル化している状況にあります。しかし、上記の文章にあるように人と人との触れ合いはいつの時代も大切なことです。桑村小学校で取り組んでいる様々な読書活動は、人と人との触れ合いが核となっています。これからも温かな環境の中、読書を通して子供たちの豊かな感性を育てていきたいと思っています。どうかこれからもご理解、ご協力をお願いします。